

＜授業展開例＞2018年1月10日 東京都立高島高等学校 大畑方人先生


【授業概要】

- 実施日 2018年1月10日(水) 13:20~14:10(50分授業)
- 先生 東京都立高島高等学校 大畑方人先生
- 学年 3年生(22名)
- 教科・科目 公民科 政治・経済
- テーマ 社会保障制度と保険のキホンについて学ぼう！
- 資料
 - ① ワークシート 社会保障制度と保険のキホンについて学ぼう！
(http://www.seiho.or.jp/edu/data/hs_worksheet_01.pdf)
 - ② 参考資料 社会保障制度と保険のキホンについて学ぼう！
(http://www.seiho.or.jp/edu/data/hs_reference_01.pdf)
 - ③ 授業プリント 社会保障制度と保険のキホンについて学ぼう！
(大畑先生が作成。別紙参照)

【授業の流れ】

時間	授業の流れ
0:00	<p>(先生) ワークシートの「1 リスクを考えよう」ですが、降水確率40%の場合、「傘を持っていく」か「傘を持っていかない」の何れかに「○」を付けましょう。また、「傘を持っていかない」場合には、降水確率が何%であれば傘を持っていくかについても記入しましょう。</p> <p>⇒生徒は、各自、ワークシートに記入。</p> <p>(先生) 傘を持っていく人は手を挙げてください。</p> <p>⇒生徒は3名挙手</p> <p>(先生) 多くの人が傘を持っていかないということですね。それでは、降水確率が何%であれば傘を持っていきますか？</p> <p>⇒多くの生徒は降水確率60%以上で傘を持っていく。</p> <p>(先生) 雨が降るといのはリスクと言えますね。雨で濡れてしまうというのは大したことはありませんが、人生には、ケガをすとか、命を落としてしまふとか様々なリスクが存在します。では、人生のリスクにどのように備えればよいかを考えてみたいと思います。</p>
0:05	<p>(先生) 授業プリントの「1 人生のリスクにどう備える？」ですが、「クイズ:日本人の平均寿命は何歳? 女性()歳 男性()歳」について考えて記入しましょう。</p> <p>⇒生徒は、各自、授業プリントに記入。</p> <p>(先生) 女性の平均寿命は何歳だと思いますか？</p> <p>(生徒) 80歳だと思います。</p> <p>(先生) 正解は87歳です。では、男性の平均寿命は何歳だと思いますか？</p> <p>(生徒) 82歳だと思います。</p> <p>(先生) 正解は80歳です。これは、男女とも香港に次いで世界第2位となっています。長生きは良いことのように思えますが、長生きすれば病気になるかもしれません。また、80歳で働いている人はほとんどいないため、長生きすればお金がなくなってしまう、生活が苦しくなってしまうかもしれません。そのため、長生きも人生の中でのリスクと考えることができます。それでは、先ほどのクイズの下の「考えてみよう:今後の自分の人生には、どのようなリスクが</p>

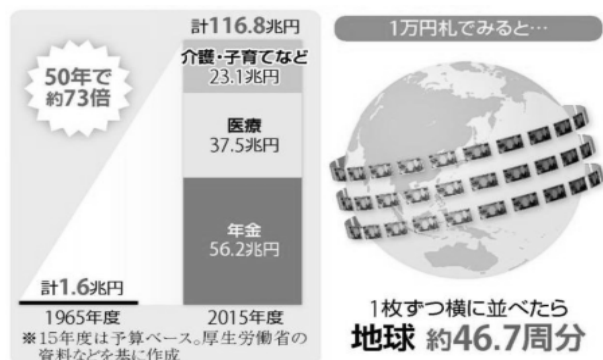


時間	授業の流れ
	<p>あるか想像してみよう」の中に、「長生き」と記入した上で、人生には他にどのようなリスクがあるのか想像してできるだけ多く記入してみましょう。ネガティブなことだけでなく、普通に考えると良さそうなことでも裏を返せばリスクとなるようなことも記入しましょう。</p> <p>⇒生徒は、各自、<u>授業プリント</u>に記入。</p> <p>(先生)記入したリスクについて、隣の人と紹介し合ひましょう。</p> <p>⇒生徒は、隣の人と紹介し合う。</p> <p>(先生)どのようなリスクがあるのか発表してください。</p> <p>(生徒)事故(ケガ)、病気、失業、退職、就職活動、結婚、出産、進学、介護などのリスクがあります。</p> <p>(先生)このようなリスクに備えて皆さんはどのようにお金を準備しなければならないのか考えていきたいと思います。先ほど記入した枠の下の矢印のところに、「人生の様々なリスクに備えて、社会全体で支え合う仕組みが用意されている。そのような仕組みを[]という」と書かれています。[]の中に「社会保障制度」と記入してください。社会保障制度については、以前に勉強したと思いますが、今日は基本的なことについて勉強したいと思います。</p> 
0:15	<p>(先生)<u>授業プリント</u>の「2 社会保障制度を支える3つの考え」ですが、自分の将来のリスクに備えてお金をどのように用意すれば良いかについて考えます。</p> <p>まず、(1)の「自分で働いて、自分の健康や生活は自分で守ること」ですが、これを「自助」と言います。将来働き始めて給料をもらえれば、お金を少しでも貯めて将来に備えることになりませんが、具体的には、貯金をしたり、株式投資などの資産運用をしたり、民間保険に加入したりします。保険の仕組みについては、<u>ワークシート</u>の「2 社会保険と公的扶助」の図『『保険』の仕組みとは?』を見てください。保険に加入している人は予め少しずつお金を保険会社に対して出します。そして、どの加入者に生じるかは分かりませんが、「定年退職により収入がなくなりました」「一家の働き手が亡くなりました」「病院に通いました」といった何らかのリスクが生じた加入者に対して、予めみんなで出したお金を支払うというのが保険の仕組みです。</p> <p>この保険ですが、民間の保険会社が運営している「民間保険」以外にも国や地方公共団体が運営している「社会保険」があります。この「社会保険」が(2)の「人生のリスクに対して、みんなでお金を出し合って共同で備えること」に当たり、これを「共助」と言います。「社会保険」には、年金保険、医療保険、介護保険、雇用保険などがあります。「社会保険」と「民間保険」の違いは、右下の表を見てください。「社会保険」は強制加入であり、例えば、2年後の20歳になれば年金保険の保険料を払わなければならなくなります。一方、「民間保険」は加入するかどうかは自由です。保険料は、「社会保険」は賃金などの負担能力に応じた額を支払うのに対して、「民間保険」は年齢等のリスクの程度に見合った額を支払います。</p> <p>最後に(3)ですが、「すでに生活に困っている人を、税金を使って支援すること」であり、これを「公助」と言います。具体的には、生活保護や障害者福祉があります。</p>
0:20	<p>(先生)国や地方自治体が運営している共助や公助に今どれくらいのお金が必要なのか考えてみたいと思います。<u>ワークシート</u>の「3 社会保障制度の財源」のグラフを見てください。社会保障給付額は、2000年には78.4兆円かかっていましたが、2014年には112.1兆円になっています。少子高齢化が進んでいるため、この社会保障給付額はどんどん膨らんでいきます。それでは、この112.1兆円はイメージしづらいと思うので、<u>授業プリント</u>の「3 社会保障制度(共助・公助)にかかるお金はどれくらい?」の図を見てください。約110兆円を1万円札でみると、1枚ずつ横に並べたら地球で約46.7周分もお金がかかっていることになります。こういった現状を踏まえ、「自助」「共助」「公助」のどれに比重をおくべきなのかを考えてもらいます。まず、<u>授業プリント</u>の「3 社会保障制度(共助・公助)にかかるお金はどれくらい?」の文章を</p>

時間	授業の流れ
	<p>読んだ上で、「4 社会保障制度のこれから…」の「考えてみよう:今後の日本社会では、自助・共助・公助のどれに比重をおくべきだろう? 自助 or 共助 or 公助」について理由も含めて考えてみてください。</p> <p>⇒生徒は、各自、授業プリントに記入。</p>
0:27	<p>(先生)グループになって考え方を共有してみましょう。</p> <p>⇒生徒は、グループで考え方を発表し合う。</p>
0:30	<p>(先生)各グループから1名、自分自身の意見で良いので発表してください。</p> <p>(生徒)私は「共助」です。一人では荷が重いので、みんなで支え合うことが大切だと思います。</p> <p>(生徒)私は「自助」です。周りの人ばかりに頼るのではなく、ある程度、自分ことは自分で守っていく必要があると思います。</p> <p>(生徒)私は「共助」です。自分だけではどうしようもないことが多くなってくると思うので、国民みんなで助け合うことが大事だと思いました。</p> <p>(生徒)私は「自助」です。少子化で働く世代が少なくなり、また、高齢者が増えています、「共助」だと少ない働く世代で多くの高齢者を支えることが難しくなっているため、自分自身で備えていく「自助」が重要になっていくと思いました。</p> <p>(先生)それでは、クラス全体ではそれぞれ何名なのか確認します。</p> <p>⇒「自助」は8名、「共助」は13名、「公助」は1名</p> <p>(先生)「公助」は1名だけですが、その理由を教えてください。</p> <p>(生徒)「共助」だと、今後、社会保険料を払える人が減ってしまい大変になります。そうであれば、外国のように、消費税を上げて税金で支援する「公助」が良いのではないかと思います。</p> <p>(先生)皆さんは消費税が8%から10%に上がると嫌だと思うかもしれませんが、フランスやスウェーデンのようなヨーロッパ諸国と比べると、日本はかなり低い税率となっています。そのため、消費税をもっと引き上げるべきだと言っている専門家もいます。</p>
0:35	<p>(先生)それでは、「自助」・「共助」・「公助」のどれに比重をおくべきか考える上でヒントとなる映像を見たいと思います。2016年9月に放送された NHK スペシャル「縮小ニッポンの衝撃」(http://www6.nhk.or.jp/special/detail/index.html?aid=20160925)です。</p> <p>⇒生徒は、映像を視聴する。</p>
0:47	<p>(先生)東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には東京でも人口が減少に転じるということでした。そうすると、年代別の人口ピラミッドがいびつな形になり、「共助」が難しくなってきます。一方で、景気も上向いていかない限り、「自助」も難しくなるため、今後どうしていけば良いのかよく考えていかなければなりませんね。究極的には少子化をストップさせて、年代別の人口ピラミッドを普通の三角形に戻していけないと、今の社会保障制度を維持することは難しいのかもしれませんが。子どもを増やすためにはどうすれば良いのかということも考えていかなければいけませんね。</p> <p>最後に、授業プリントの「5 今後の日本はどうなる?」の感想欄に、映像を見て感じたことや、授業で学んだことなどについて書いてみましょう。</p>
0:50	<p>⇒生徒は、各自、授業プリントに記入し、先生に提出して授業終了。</p>



3 社会保障制度（共助・公助）にかかるお金はどれくらい？



（出典：読売新聞 yomiDr. より）

お金の出所（財源）は主に、年金や医療保険などの「保険料」と、みんなが払っている「税金」だ。

保険料は、財源の約6割を占めている。働いている人だけでなく、雇っている会社も払っているし、仕事を引退したお年寄りも、医療保険や介護保険の保険料を払っている。学生やフリーターも、20歳になったら、年金の保険料を納めないといけない。

残りの約4割が税金だ。働いている人が払う所得税やみんなが払う消費税も入っている。こうした税金は、いったん国や地方自治体のお財布に入り、社会保障に割り当てられる。

今後も、社会保障にかかるお金は、高齢者の増加などで医療や介護を中心に増えるとみられている。現在は約110兆円の費用がかかっているが、2025年には、戦後の第1次ベビーブームで生まれた「団塊の世代」と呼ばれる人たちが全員75歳以上となり、社会保障費は約150兆円に達すると見込まれている。

一方で、少子化で現役世代が減ることなどから保険料収入や税収は伸び悩み、社会保障に必要なお金を十分に賄うことができなくなるかもしれない。すでに国と地方を合わせた借金は1000兆円を超えている。

社会保障は、社会全体の支え合い。大切なお金をどう使い、どう負担しあうか。世代を問わず、支える側も、支えられる側も、みんなに関心を持たないといけない問題だ。

4 社会保障制度のこれから…

考えてみよう：今後の日本社会では、自助・共助・公助のどれに比重をおくべきだろうか？

自助 or 共助 or 公助

【そう考える理由】

5 今後の日本はようになる？（NHKスペシャル『縮小ニッポンの衝撃』2016年9月放送）

感想：映像を見て感じたことや、授業で学んだことなどについて書いてみよう。

3年 組 番 氏名